

長畝ふるさと通信

【2013年12月号】

■ 収穫感謝祭は今年も盛り上がりました！

＜名物「100杯豚汁」＞

11月30日(土)、一週間前から佐渡はず～と雨模様でしたが、さすがにこの日ばかりは晴れました。恒例の組合主催の収穫感謝祭の日です。

朝早くから農産物の直売や餅つき、宴会の準備にと大忙し。名物となった100杯豚汁もたくさんの野菜の出汁が出て会場一杯に美味しそうな香りを充満させています。毎年この鍋を楽しむに参加する人も多いんです。



＜アカトンボについて学ぶ＞

記念講演は佐渡の田んぼの良さを全国に発信する「佐渡生きもの語り研究所」の仲川理事長から「アカトンボ」についてお話をうかがいました。佐渡に生息するアカトンボは「ナツアカネ」「アキアカネ」「ノシメトンボ」の3種類。「秋に田んぼで卵を産み越冬、6月中旬にはヤゴからトンボに変身します。出来るだけ農薬を使わないことでトンボの命を守ることが出来ます。いつまでもトンボがいっぱい大空を飛んでくる風景を楽しみたいですと仲川さん。一番前には地域の未来を託す子供たち。皆真剣なまなざしで話を聞いていました。佐渡では90年後の2100年はどうなっているのでしょうか。今できることをみんなで考え、行動していきたいと思います。

＜臼と杵 餅つきは伝統行事？＞

すっかり見る事のなくなった昔ながらの餅つき。臼や杵も絶滅危惧種となりました。蒸した餅米をつぶしてまとめるまでが一番大変な作業、「早くしないともちが冷えてしまう」「でももちが臼の中で逃げてしまつてうまくまとまってくれない」「あ～腕が、腰が痛い・・・」悪戦苦闘の末、何とかもち



かあちゃん手作り料理も出そろって、みんなで大宴会。お腹いっぱい、大いに笑ったひとときとなりました。

がまとまると、あとはぺったんぺったんともちをつく。子供たちも初めての体験に興味津々。つきたてのモチは格別に美味しかったです。



■ 平成25年を振り返って・・・

<冬> 誰もいない田んぼ 時間だけが静かに流れています



冬の田んぼを訪れるのは野生の鳥たち。トキを始めサギや白鳥などが餌を求めてやってきます。トキ認証米に取り組んで5年、「生きものを育む農法」は着実に田んぼに生きものたちを増やしています。佐渡で食物連鎖の頂点に君臨する大型鳥類が増えたことが何よりの証拠です。24年産米はこれまでにない大豊作でした。25年産もこれに続けと意気込みは良かったのですが・・・そんなに甘いものではありませんでした。

<春> 田んぼからたくさんの命が生まれま
す

春の訪れと共に生きものたちは一斉に活動を始めます。佐渡にしかない「サドガエル」(写真はサドガエルではありません)も認定されました。田んぼから取れたお米を主食とする日本人も「田んぼから命をもらっている」と勝手に思っています。「生きものを育む農法」は人間を育むものでもあるのですから。



＜夏＞ 一面ミドリ・ミドリ・ミドリ 天井はアオ



夏の田んぼは緑一色。佐渡では畦草にも除草剤を使用しないので、鮮やかな緑が全面に広がります。「佐渡の百姓はなぜ除草剤を使わずに今でも手刈りするのですか」とよく聞かれます。即座に「気持ちがいいからです」と答えます。刈ったばかりの畦草がそよ風に乗って澄んだ空気に香りを付けていきます。「空気がうまい！」とはこのことを指すのでしょうか。少しだけ汗のにおいも気になりますが…

＜秋＞ 悪戦苦闘の稲刈り

これまでに経験したことのない＜湿田＞での稲刈りでした。本来なら9月になると田んぼの水を切って田面をカラカラに干し、大型のコンバインが入って作業しても埋まることはありません。ところが今年は8月中旬から雨続き、9月に入っても状況は変わらず、とうとう田んぼが十分に干せないまま稲刈りを迎えてしまいました。毎日のようにコンバインが田んぼに埋まり、大勢で手刈りした稲を



運びました。2人の作業が10人に、半日の作業が1日たっても終わらない悪戦苦闘の日々が約2週間も続き、疲労困憊。後半は何とかもちかえしたものの昨年ほどの豊作とまでは至りませんでした。「コメは1年一作」、その年の気候や様々な条件によって作柄も変化していきます。80歳になる先輩は「50、60はまだハナタレさ」と言います。ボクはまだハナタレにも満たない…

■ 良いお年をお迎え下さい



平成25年もあとわずか、会員の皆様、今年も1年ありがとうございました。感謝の気持ちを込めて些少ではございますが組合の特産品をお送りいたします。年越しのごちそうにお使い下さい。

平成26年も宜しく願いいたします。

長畝生産組合 組合員一同